



全国学力・学習状況調査 質問紙分析

～学力と質問紙の相関関係から考える～

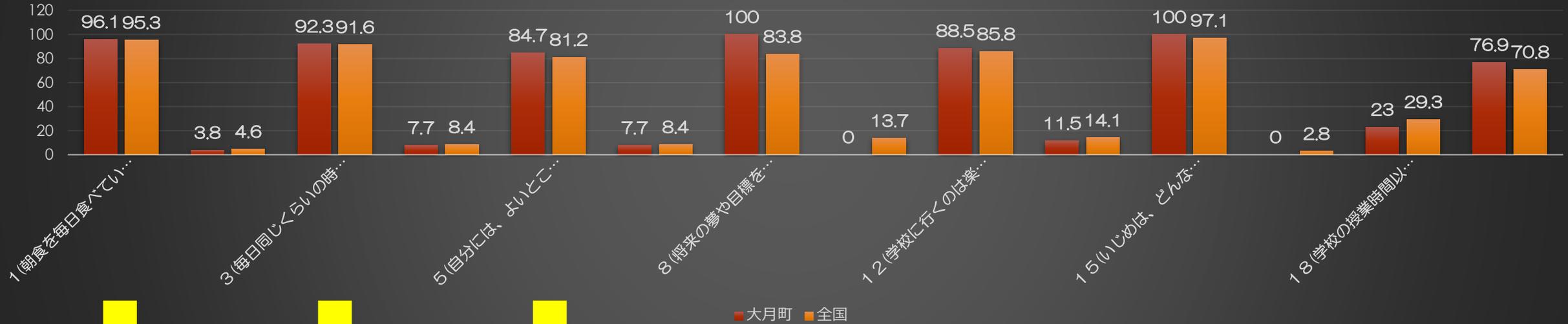


大月町教育振興基本計画の目標項目

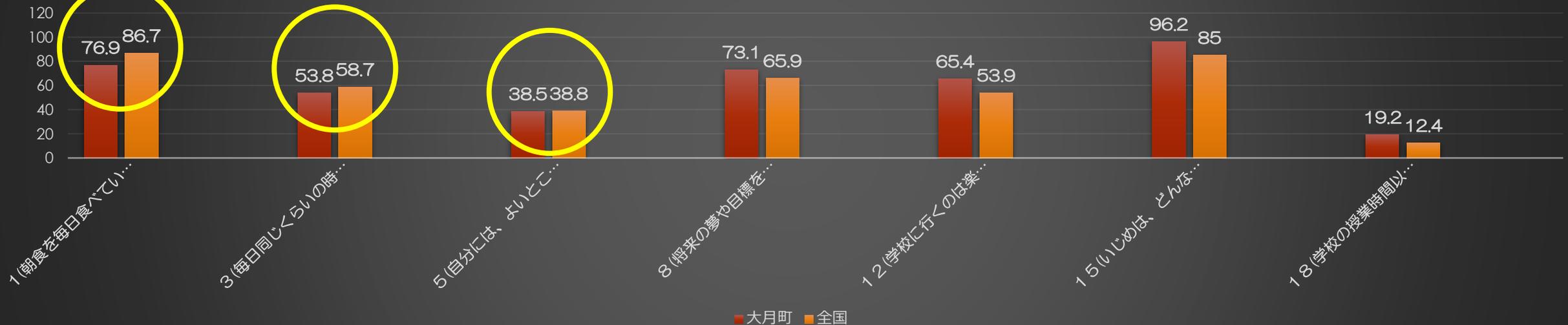


【小学校】

全国学力・学習状況調査質問紙分析：肯定群と否定群比較

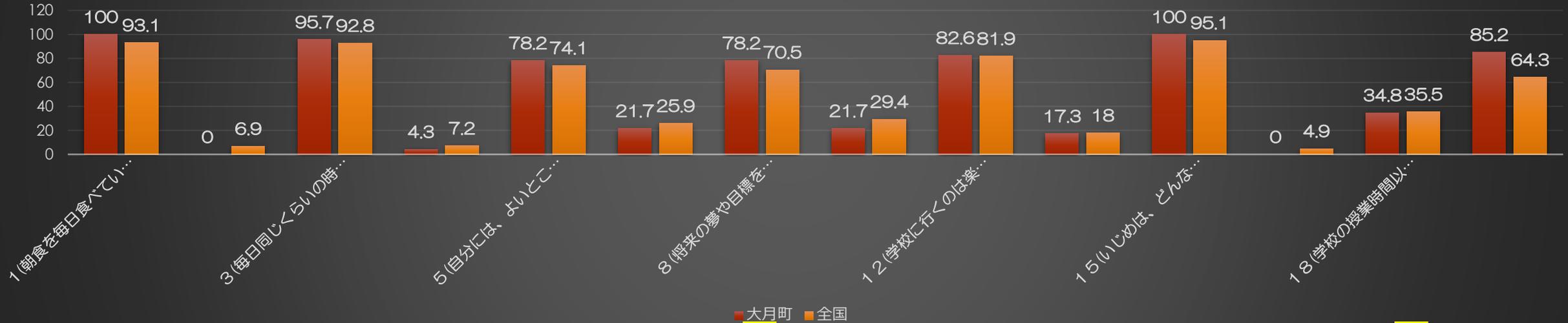


全国学力・学習状況調査質問紙分析：強肯定群比較

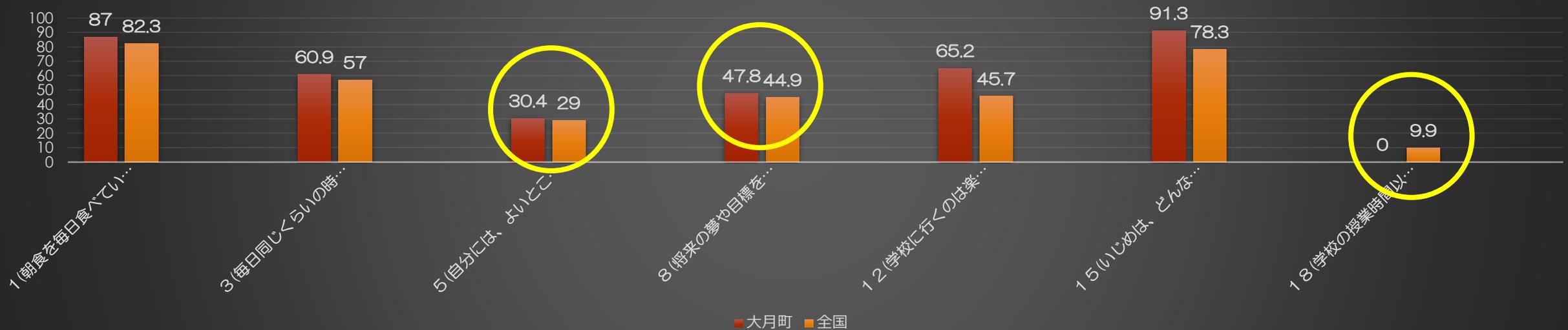


【中学校】

全国学力・学習状況調査質問紙分析：肯定群と否定群比較

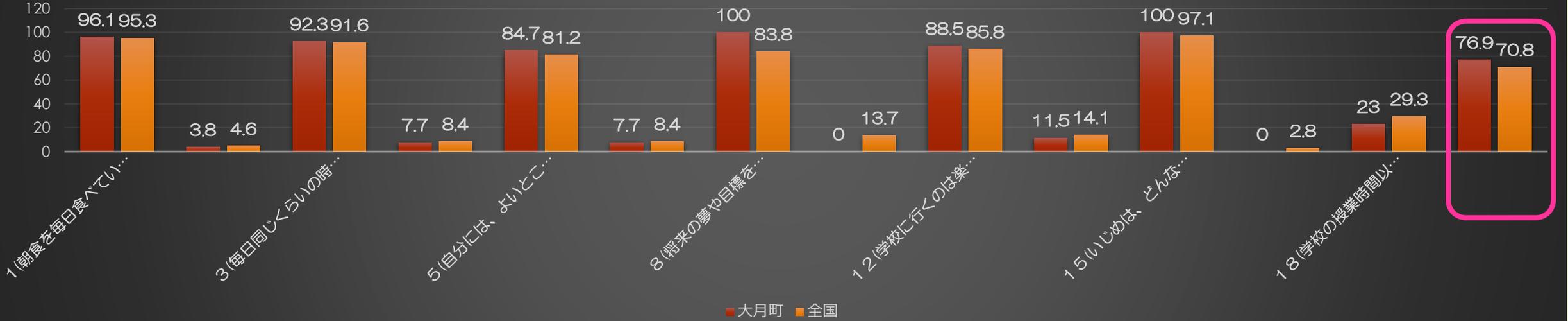


全国学力・学習状況調査質問紙分析：強肯定群比較



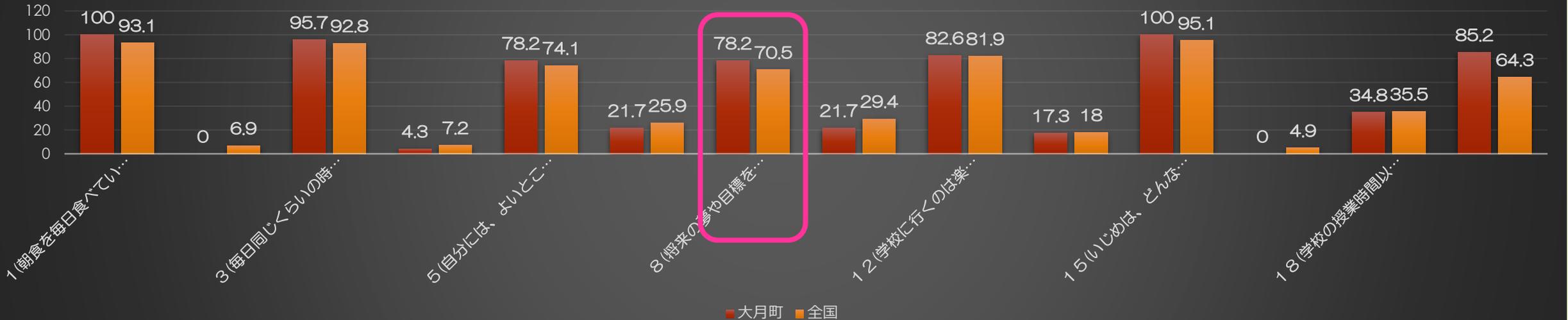
【小学校】

全国学力・学習状況調査質問紙分析：肯定群と否定群比較



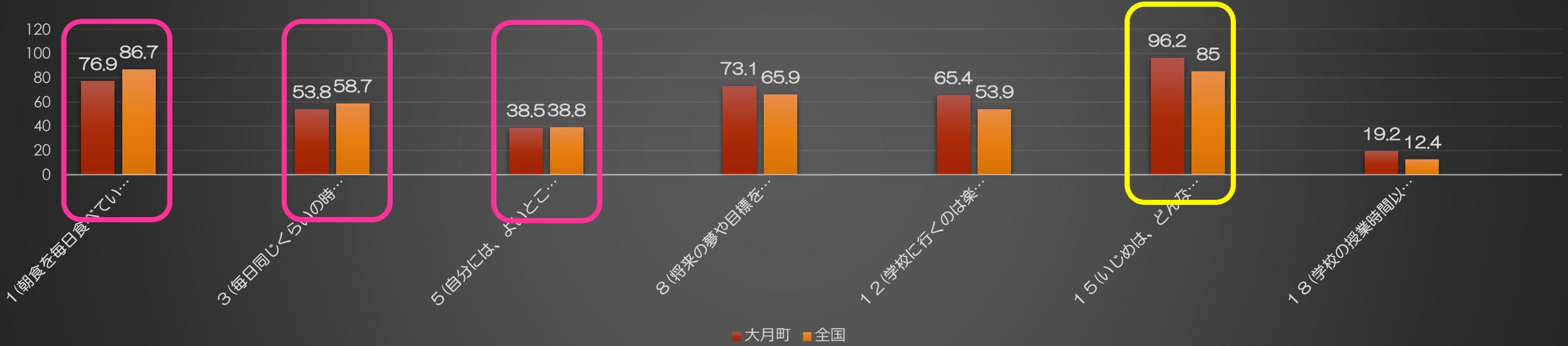
【中学校】

全国学力・学習状況調査質問紙分析：肯定群と否定群比較



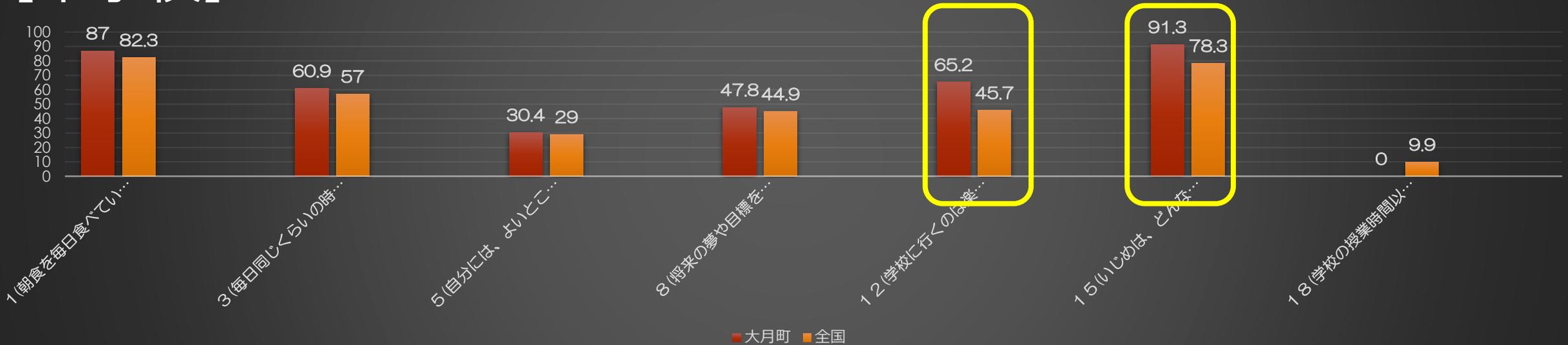
【小学校】

全国学力・学習状況調査質問紙分析：強肯定群比較



【中学校】

全国学力・学習状況調査質問紙分析：強肯定群比較





質問紙と学力の相関関係

【小学校：国語】

【児童・学校質問紙調査】

番号	質問事項	強い肯定的回答 (全国比)
4 2 児童	国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか	69.2 (+33)
4 3 児童	国語の授業で自分の考えを話したり書いたりする時、うまく伝わるように理由を示したりするなど、話や文章の組み立てを工夫していますか	38.5 (+12.4)
4 4 児童	国語の授業で文章や資料を読む時、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落同士の関係を考えたりしながら読んでいますか	53.8 (+23.5)
4 4 学校	調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか	0 (-54.3)

【学力調査結果】

番号	質問事項	正答率 (全国比)
1-(三)	目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く	30.8 (+2)
1-(四)ウ	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	15.4 (-20.2)

- 言語活動を取り入れての学習は行われていると強く感じている児童は多い。
- 自分の考えを伝える活動も行われている。
- 目的に沿った言語活動の設定になっていない。
- 自分の考えをまとめることができている、目的意識（相手意識）を持った活動になっていない。
- 漢字や語句の定着に向けた取組の工夫が必要である。同音異義語等への対応ができるように、課題（家庭学習等）への取組ませ方も重要である。

【言語活動の質的向上】

- ☆目的意識を持たせた学習展開の設定
- ☆漢字（語句）学習と読書活動の量的・質的向上

【小学校：算数】

【児童・学校質問紙調査】

番号	質問事項	強い肯定的回答 (全国比)
53 児童	算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	57.7 (+10)
54 児童	算数の授業で公式や決まりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	53.8 (+5.4)
55 児童	算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	65.4 (+7.9)
46 学校	調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	0 (-16.9)
47 学校	調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	0 (-16.5)

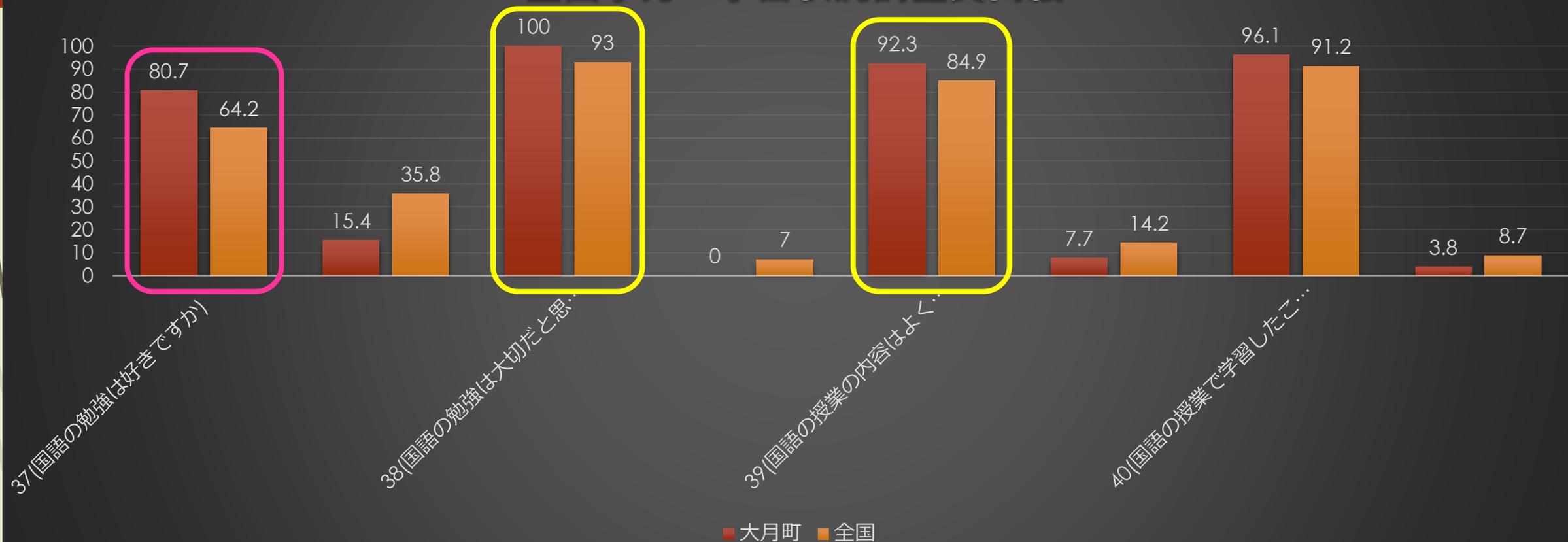
【学力調査結果】

番号	質問事項	強い肯定的回答 (全国比)
1- (三)	示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる	42.3 (-1.3)
3- (二)	示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、減法に関して成り立つ性質を記述できる	46.2 (+15.1)
2- (二)	2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の何倍か読み取ることができる	73.1 (-5.5)

- 児童は、問題の解き方に対して、いろいろな角度から考えている。
- 方法などの説明について書こうとできている。
- 算数用語等を活用して、自分以外に分かるような記述となっていない。
- 公式などの定着が不十分もしくは意味理解ができておらず、活用することができていない。
- 授業と生活が結びついた授業改善が必要である。
【言語活動の質的向上】
- ☆低学年から算数的活動の中で算数用語を適切に活用した活動を仕組む。
- ☆学習内容（授業）を日常生活に生かすことができる展開

学習面～各教科～に関する項目（小学校：国語）

全国学力・学習状況調査質問紙

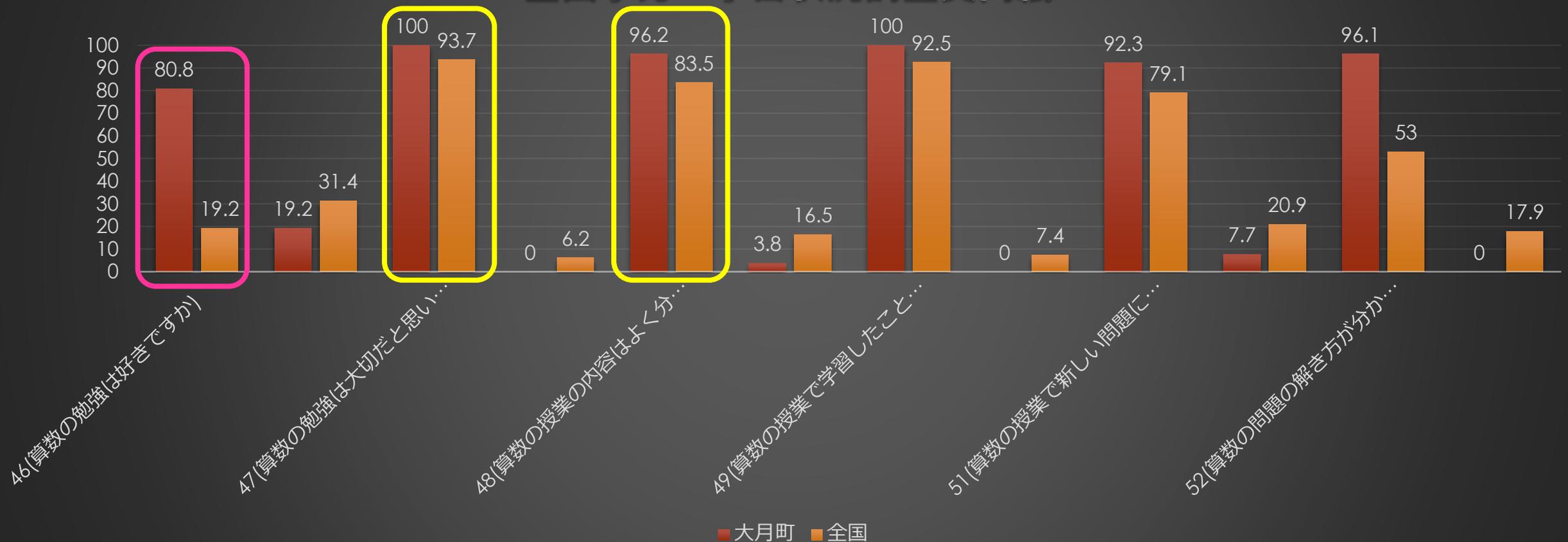


【分析】

- ・ 国語の勉強に対する嗜好面は高い。この意欲を活用した授業づくりで更なる学力向上につなげたい。
- ・ 意欲の面と授業構成がかみ合うように単元を構成し、児童主体の授業を仕組んでいければと考える。

学習面～各教科～に関する項目（小学校：算数）

全国学力・学習状況調査質問紙



【分析】

- ・国語同様に嗜好面は高い。授業に対する意欲を掴み、授業の中で表現し合う時間を多くすればよいと考える。
- ・学習したことを生かす大切さを感じているため、振り返りでさらに自己の成長を表現できるようにしたい。

【中学校：国語】

【生徒・学校質問紙調査】

番号	質問事項	強い肯定的回答 (全国比)
4 4 生徒	国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしていますか	47.8 (+16.6)
4 5 生徒	国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか	65.2 (+32.7)
4 6 生徒	国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように根拠を示したりするなど、話や文章の組み立てを工夫していますか	26.1 (+5.2)
4 7 生徒	国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落相互の関係を考えたりしながら読んでいますか	26.1 (+0.9)
4 1 学校	調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	0 (-15.1)
4 4 学校	調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか	0 (-31.5)

【学力調査結果】

番号	質問事項	強い肯定的回答 (全国比)
1一 (三)	文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えを持つ	100 (+8.8)
1一 (四) ウ	文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える	69.6 (+12.8)

- 言語活動を適切に取り入れた学習が展開されている。
- 目的に応じた言語活動ができている。
- 授業を通して、自分の考えをまとめ、伝えることができるような展開が仕込まれている。
- 読書習慣が不十分である。
- 考えを伝えるために、内容を推敲し、再度書き直すなどの活動の量的確保をさらに行う。

【言語活動の質的向上】

- ☆国語科の指導事項の再確認（新学習指導要領に即した「話すこと・聞くこと・書くこと・読むこと」の指導バランスを図る）
- ☆読書環境の整備と活用促進
- ☆国語科を柱とした言語活動のつながりを視覚化する

【中学校：数学】

【生徒・学校質問紙調査】

番号	質問事項	強い肯定的回答 (全国比)
53 生徒	今回の数学の問題について、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありましたかどのように解答しましたか（最後まで書こうと努力した）	87 (+26.2)
51 生徒	授業の内容はよくわかりますか	39.1 (+4.3)
49 生徒	数学の勉強は好きですか	26.1 (-4.6)
47 学校	調査対象学年の児童に対する数学の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	0 (-19.1)
48 学校	調査対象学年の児童に対する数学の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	0 (-15.2)

【学力調査結果】

番号	質問事項	強い肯定的回答 (全国比)
1	数の集合と四則計算の可能性について理解している	47.8 (-14.4)
6- (一)	グラフ上の点Pのy座標と点Qのy座標の差を、事象に即して解釈することができる	26.1 (-12.7)
6- (二)	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる	65.2 (+30.5)

- 記述に対する苦手意識がない。
- 説明等の活動が量的・質的にも確保されている。
- 計算はできても、計算の方法や説明、公式の理解が繋がっていないと考える。
- 生徒が実感を伴った数学となっていない。
- 生徒は数学が必要であると感じつつも、その活用は十分ではないと感じている。（実生活とのつながり）

【言語活動の質的向上】

- ☆学習内容の振り返り。(何を学び、何をを見つけ、どう生かすか等)
- ☆考えを伝える必要性を高め、目的意識を持たせた活動を設定

【中学校：英語】

【生徒・学校質問紙調査】

番号	質問事項	強い肯定的回答 (全国比)
6 1 生徒	授業では、英語を読んで(一文一文ではなく全体の)概要や要点を捉える活動が行われていたと思いますか	34.8 (-0.9)
6 4 生徒	授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思いますか	56.5 (+15.5)
6 6 生徒	授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語でまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていたと思いますか	56.5 (+33.6)
6 2 生徒	授業では、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか	17.4 (-8.6)
5 4 学校	調査対象学年の生徒に対する英語の指導として、前年度までに、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動を行いましたか	0 (-18.1)
5 8 学校	調査対象学年の生徒に対する英語の指導として、前年度までに、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする言語活動を行いましたか	0 (-17.6)
6 2 学校	英語担当教師とALTとの間で、授業のねらいや活動の意図、各学級や一人一人の生徒の実態等について共通認識を持ち、協力して授業を行うことができていると思いますか	0 (-13.1)

【学力調査結果】

番号	質問事項	強い肯定的回答 (全国比)
4	聞いて把握した内容について、適切に応じることができる	0 (-7.6)
8	書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などを捉えることができる	0 (-10.9)
10	与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができる	0 (-1.8)
9-(三) ②	与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる	34.8 (+1.9)

- 言語活動を取り入れつつ、書く活動も行っていると感じている。
- 言語活動が英語の資質・能力の育成に向けた内容になっていない。
- 書くことと内容が繋がっていないことも考えられ、また、時間内で定量書ききれんどうかの確認が必要である。
- 生徒も学校も書くことは行っている、伝え合う言語活動が不十分であると感じている。

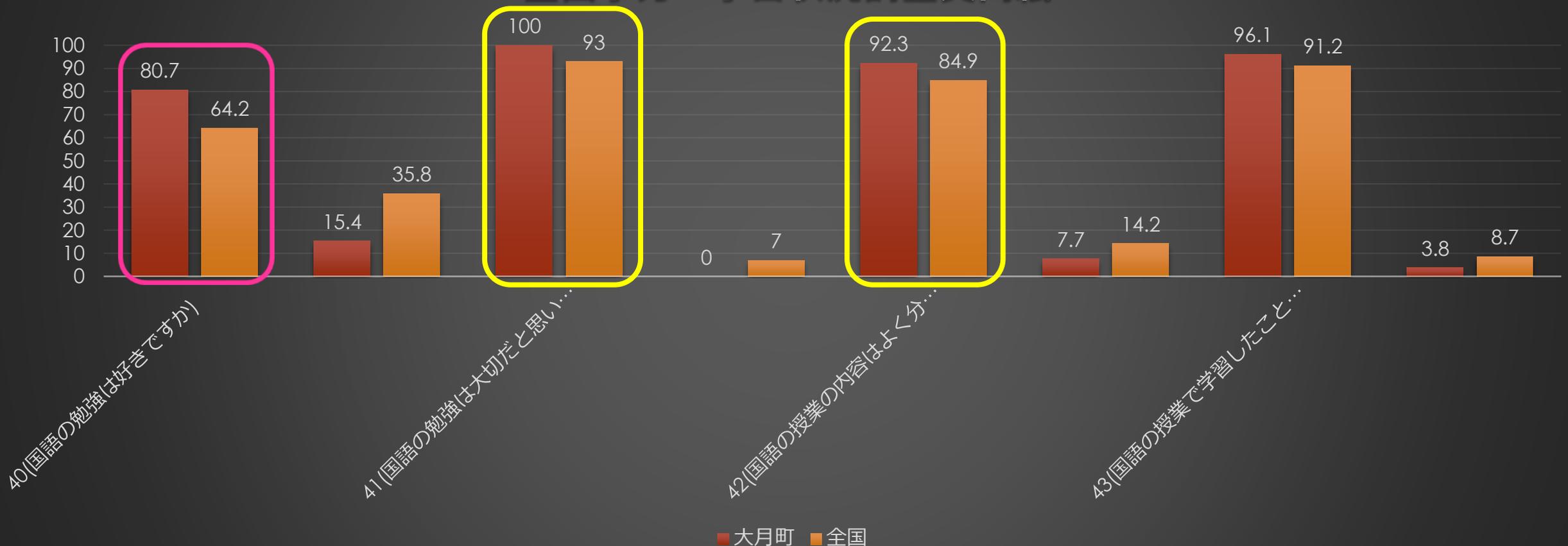
●ALTの有効活用が鍵となる。

【言語活動の質的向上】

- ☆生徒の現学年及び卒業までに英語をどのレベルまで持っていかを明確化し、そこに向けた授業と言語活動を設定する。
- ☆時間設定や速さを伴い、ネイティブな英語に親しませる。

学習面～各教科～に関する項目（中学校：国語）

全国学力・学習状況調査質問紙

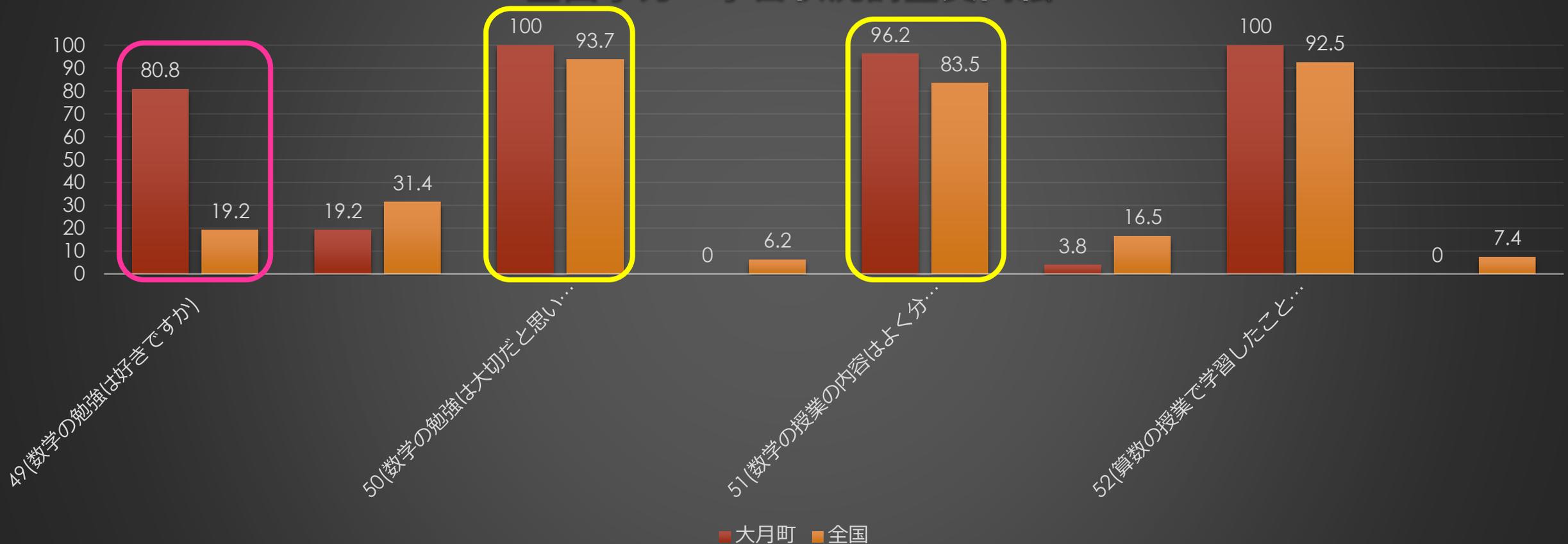


【分析】

- ・ 大切さを感じつつも、授業に若干の悩みや思いがあると考えられる。授業自体がより生徒主体で行われることにより、好きなことを日常生活や他教科へも波及できるように思われる。
- ・ 具体的に将来にどう生かすのかについて自分事として考えられるとよいと思われる。

学習面～各教科～に関する項目（中学校：数学）

全国学力・学習状況調査質問紙

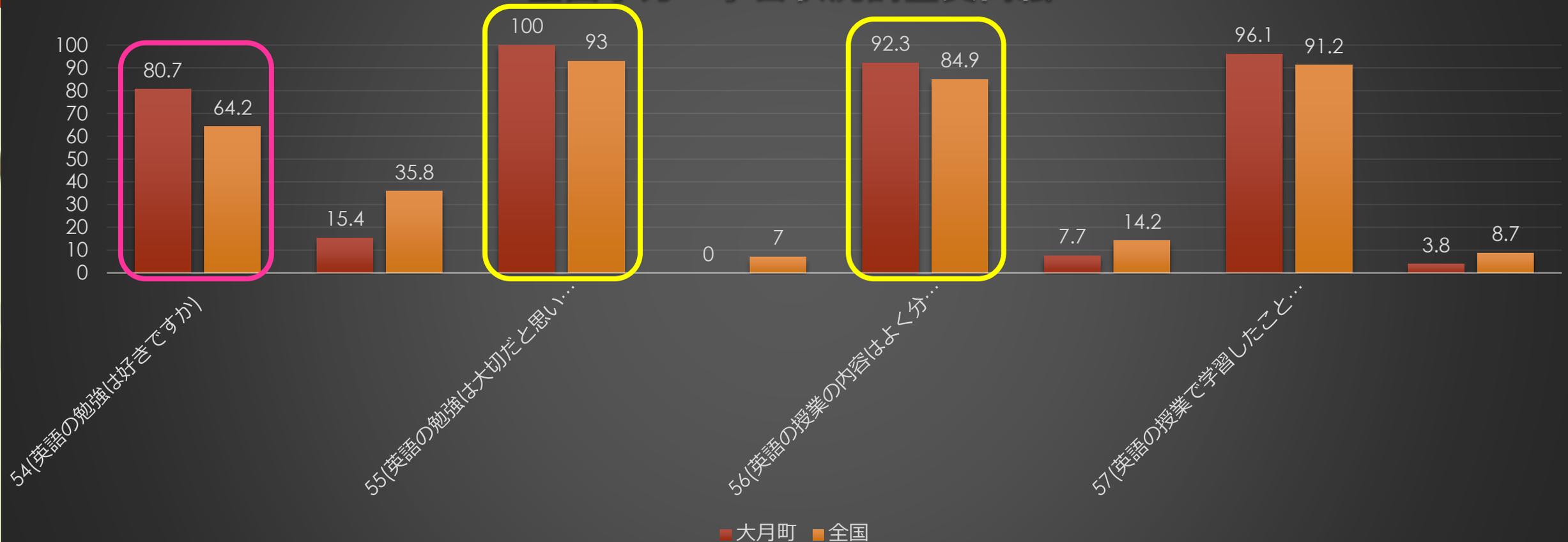


【分析】

- ・国語同様に大切さを感じつつも、授業に若干の悩みや思いがあると考えられる。数学の授業が役に立つと感じている点からも、学びをどのように自分の成長として感じられるかが大切であると考え。授業がよく分かると感じているため、自主的に学びたいと思える仕掛けを工夫できると考える。

学習面～各教科～に関する項目（中学校：英語）

全国学力・学習状況調査質問紙



【分析】

- ・ 国語、数学と同様に大切さと嗜好に差が見られる。役に立つと感じつつも、日常的に使う機会(26.1%)、英語を使う職業への就業(56.5%)と授業や学びを「生かす」こととつながりにくい状況にあると考えられる。
- ・ 英語に親しむ環境づくりを仕組む必要があると考える。…結果学力向上につながり、表現力も豊かに。

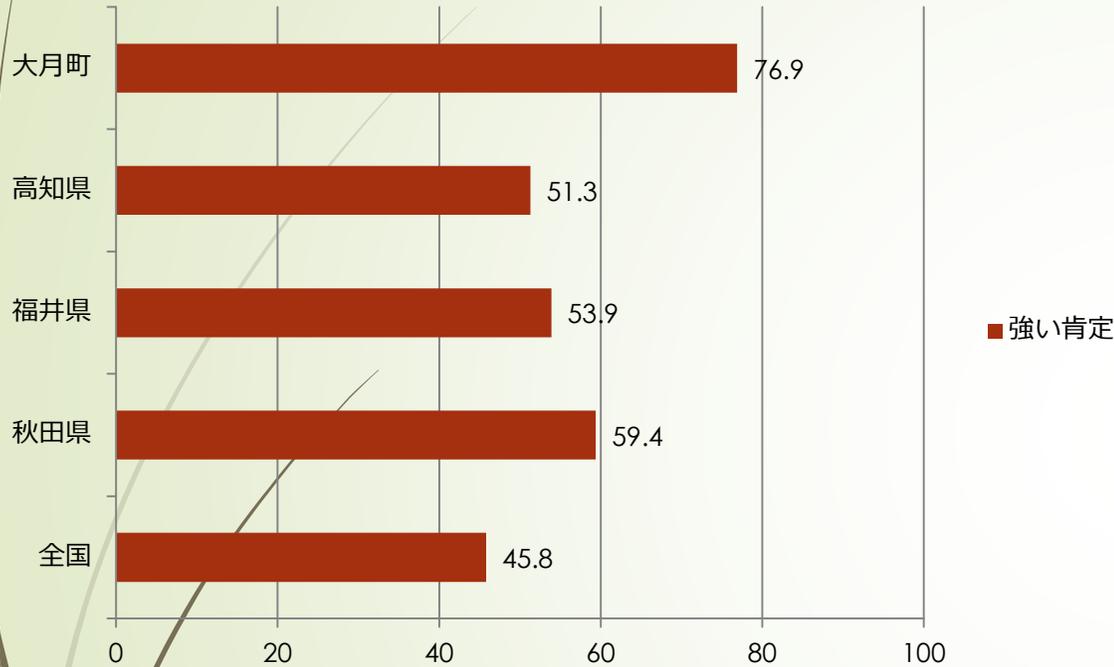


学級活動と学力の相関関係

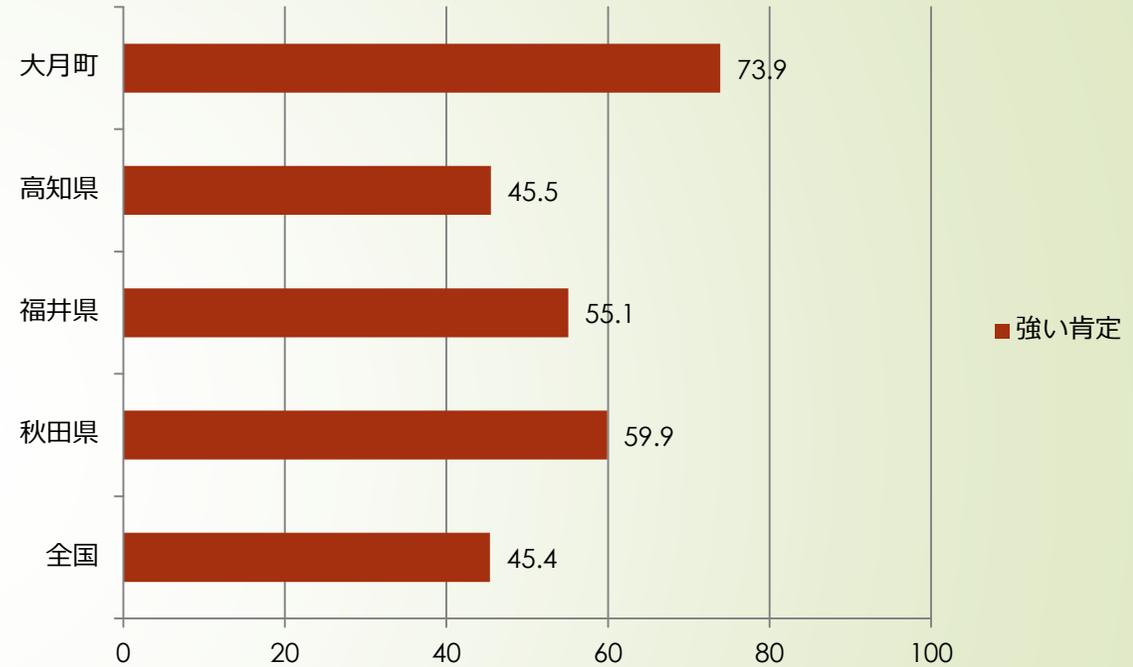
【小・中学校】

学級みんなで話し合っただけで決めたことなどに協力して取り組みうれしかったことはありますか

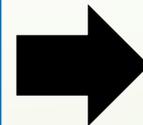
児童質問紙(小学校)



児童質問紙(中学校)



- 小学校、中学校ともに高い意識が見られる。
- 学級活動が反省等で終わることがなく、日々の学校教育活動全体の問題解決や学級の約束事等の協議の場となっていることが考えられる。
- 協力することに喜びを感じられることは、授業中の話し合い活動（言語活動）に生かされる。
- 話し合いの目的等が明確になっているものと思われる。

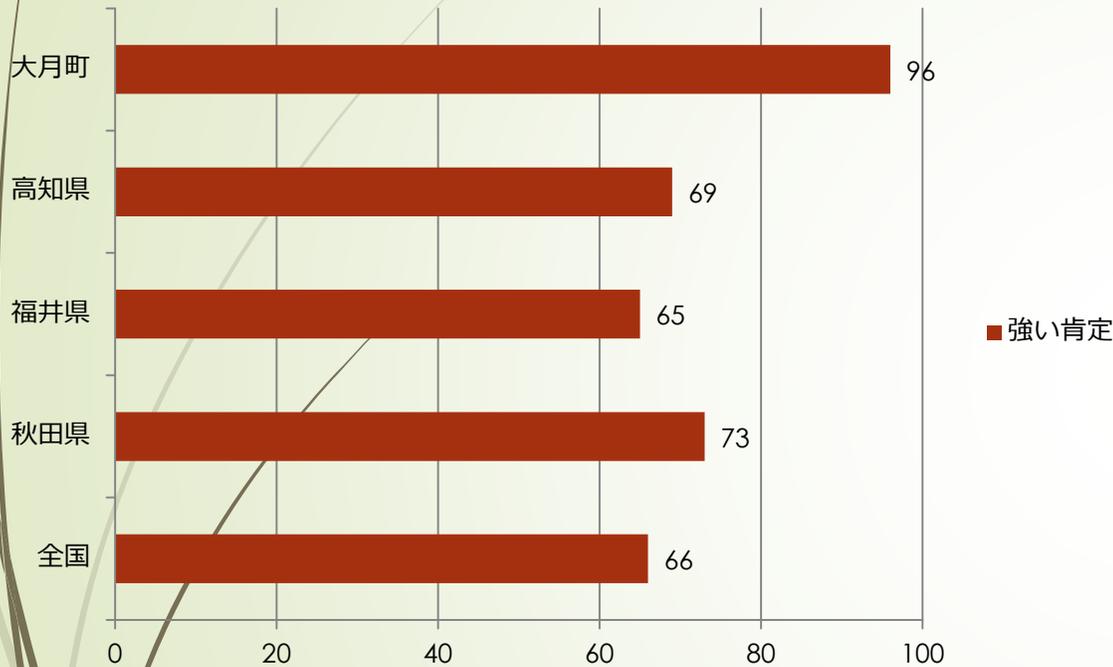


- ☆学級活動等での話し合い活動がテーマ・目的に沿った形で行われることにより、各教科の授業においても、ゴールを明確にしておけば、児童生徒が主体的に協働して活動できるということが想定される。
- ☆自分の考えを持つこと、相手の意見を聞き、比較すること、考えを修正すること、やってみて振り返ること等、学級の基盤が整うことが学力の保障につながるものと考えられる。

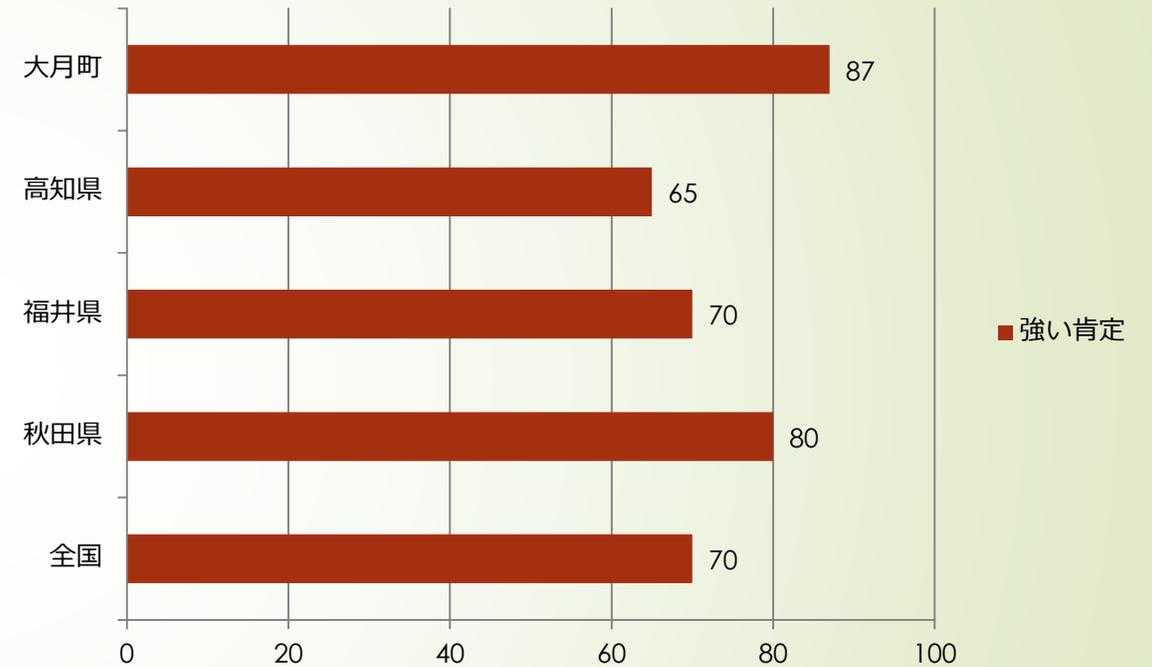
【小・中学校】

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか
（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む：1時間以上の割合比較）

児童質問紙(小学校)



児童質問紙(中学校)



○小学校、中学校ともに1時間以上の学習はできている。
特に中学校においては、部活動との関連もある中でも家庭学習等ができていることがうかがえる。
○日々の家庭学習に確実に取り組める児童生徒がいる。
○学習したことを復習し、予習できる素地はあると考える。

☆小学校においては放課後学習も授業時間外の学習と捉えていると考える。よって、時間の確保は十分にできているため、個々に対しての課題の提供の工夫が学力定着につながるものと考えられる。
☆家庭学習においても基礎・基本の学習と発展的な学習を計画的に行うことで、個々の課題への支援やつまづきの発見、成長につながるものと思われる。

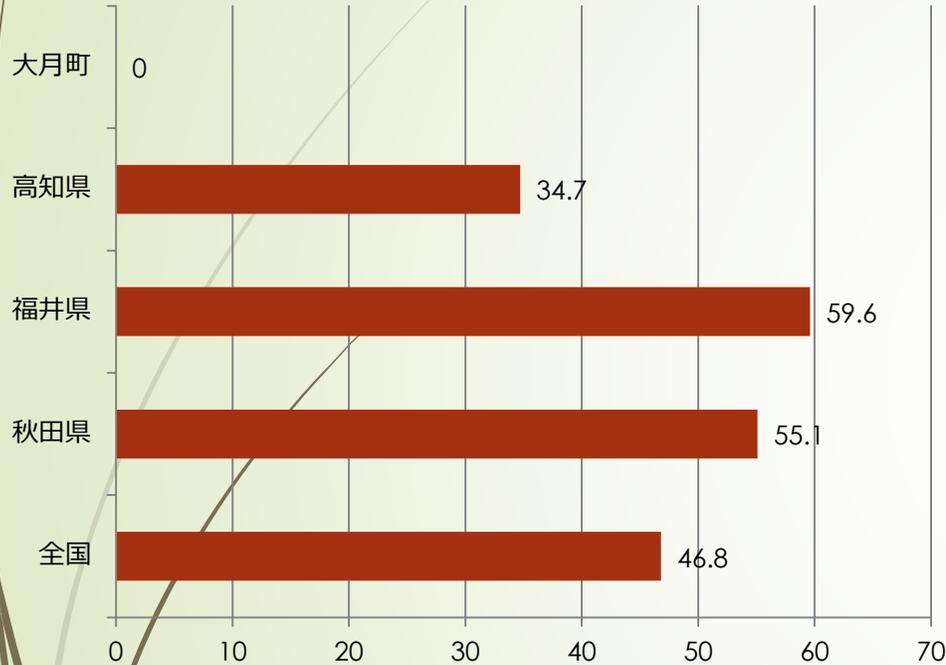


言語活動の質的向上と新学指を基にした
チーム作りからの資質・能力の向上

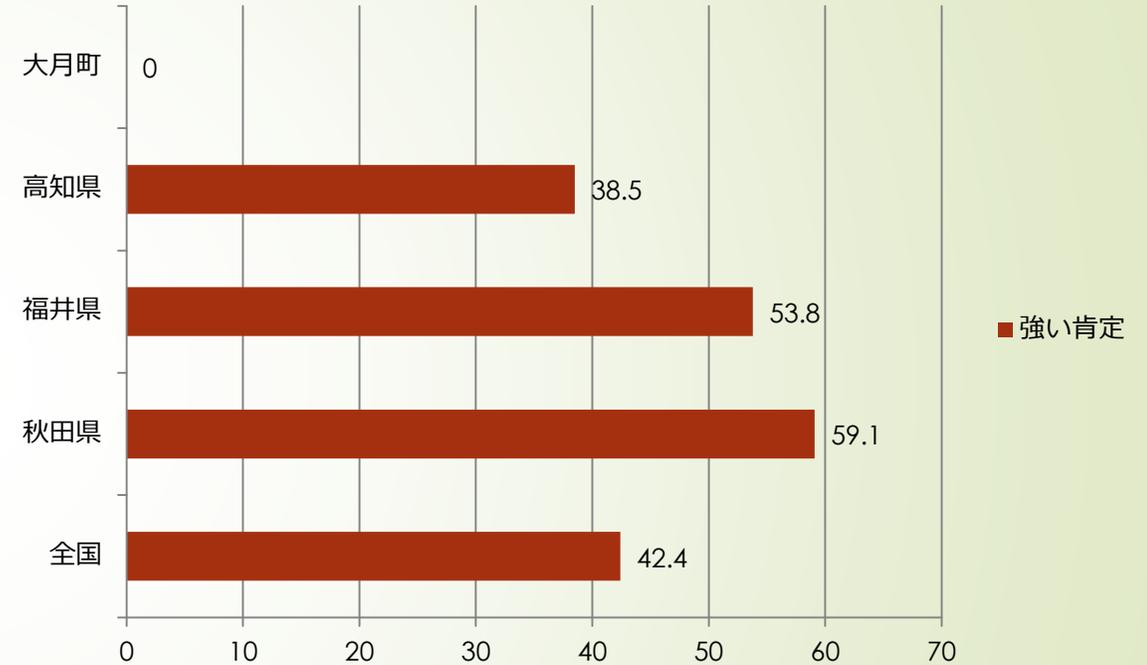
【小・中学校】

言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、（外国語活動）、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか

学校質問紙(小学校)



学校質問紙(中学校)

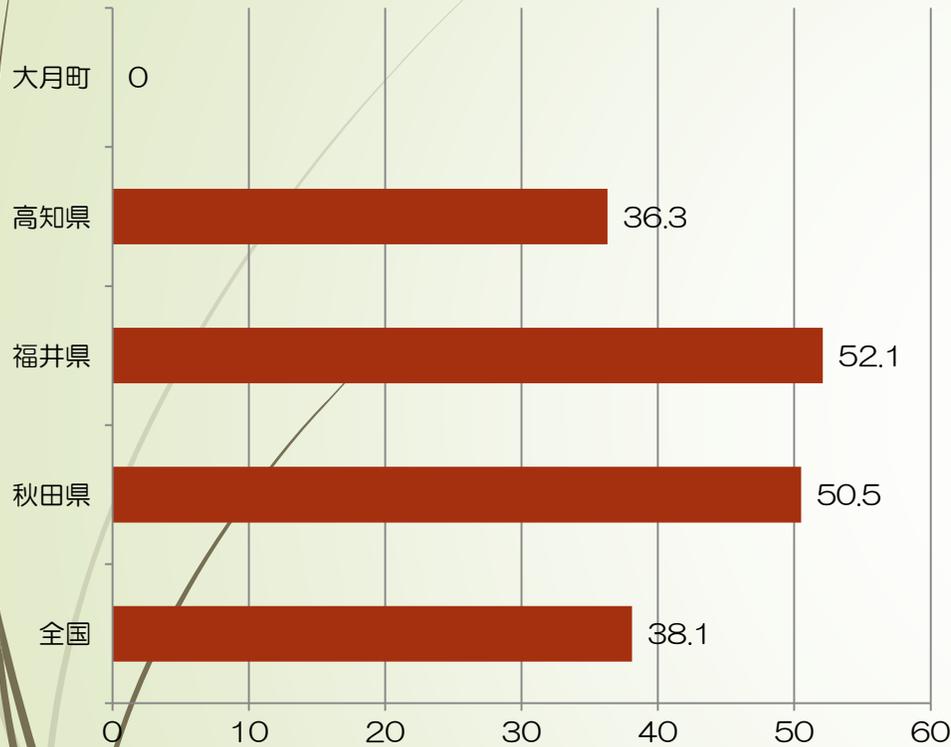


高知県が示した【言語活動チェックシート】のLv.3に該当
・各教科の質問紙においては、言語活動はある程度行っていると回答していたが、各教科をつないだ言語活動は十分に行われていないと感じている。
☆国語科を柱として、各教科、領域の特質に応じた言語活動がどんな内容かについて組織で確認することが必要であると考える。（新学習指導要領、能力ベース赤本）

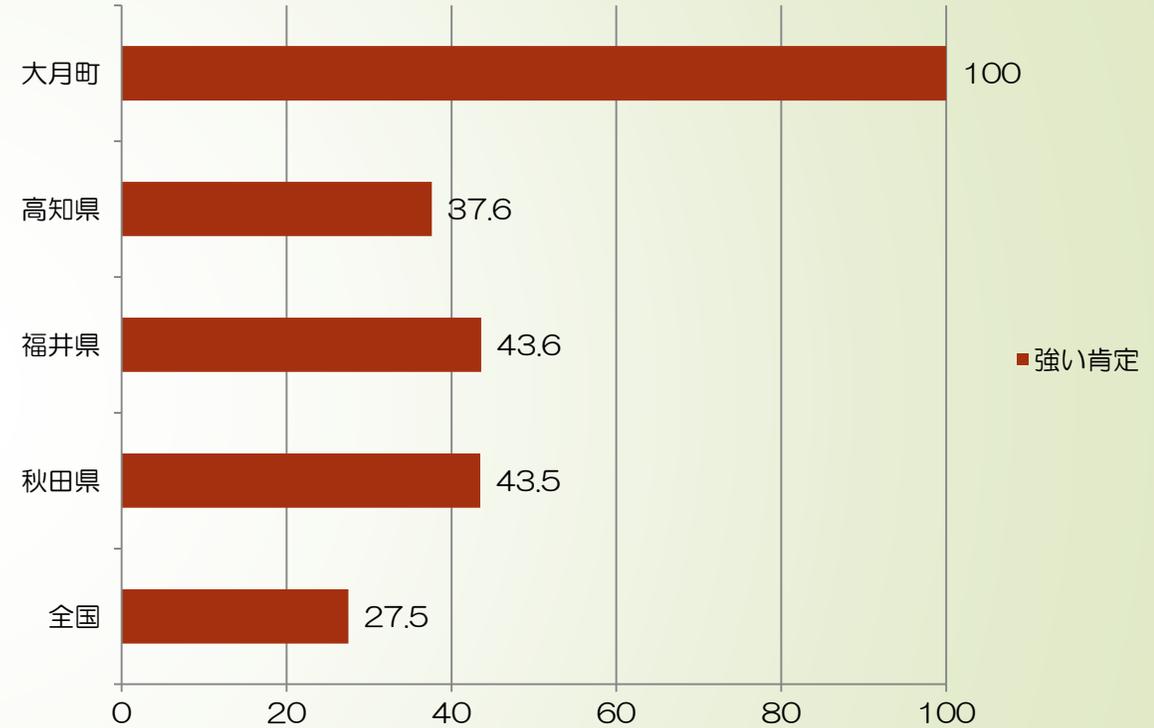
【小・中学校】

学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか

学校質問紙(小学校)



学校質問紙(中学校)

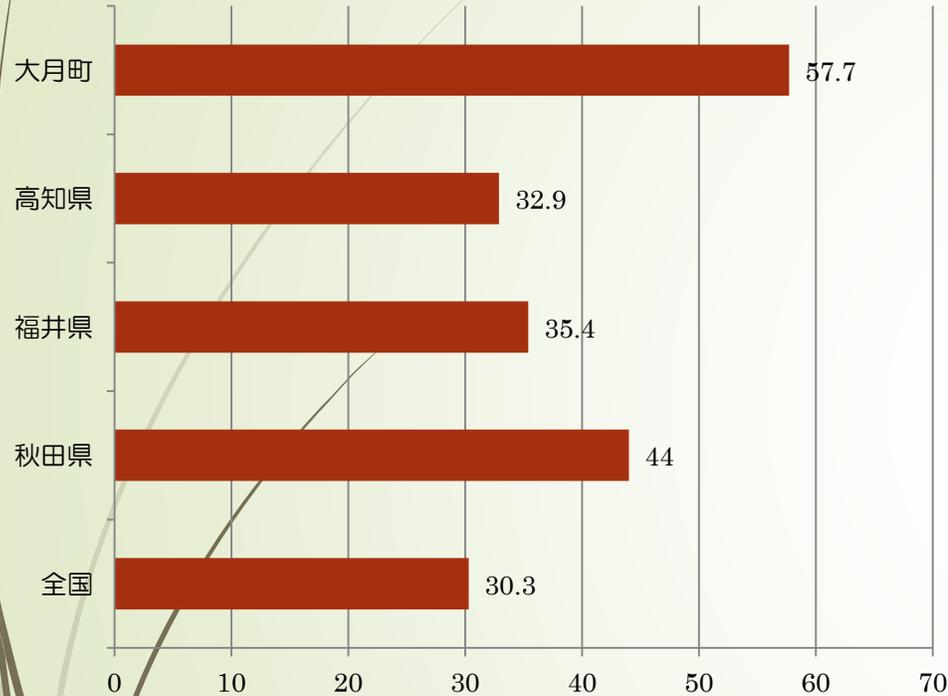


高知県が示した【言語活動チェックシート】のLv.4に該当
・言語活動という言葉や内容については理解しているが、日々の授業の中で課題となっていることや、適切な言語活動の取り入れ方について協議するなどが大切である。
☆個々の教師が言語活動を行うのではなく、学校として取り組むべき内容について共通認識することが重要である。
(新学習指導要領、能力ベース赤本)

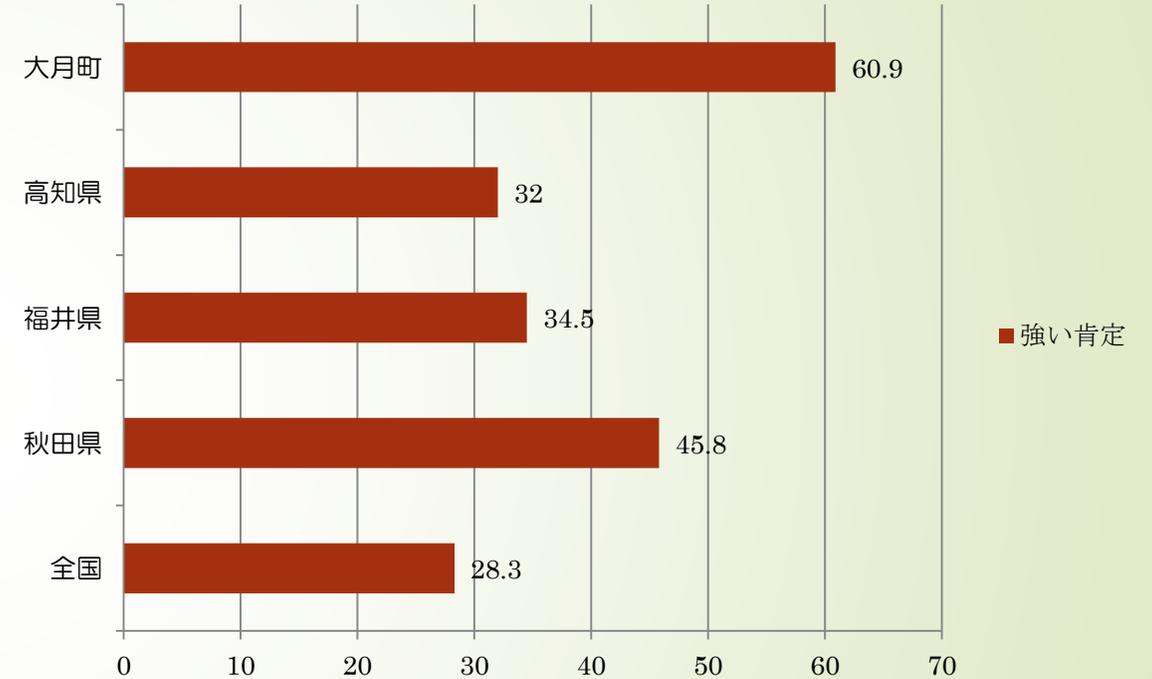
【小・中学校】

学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思いますか

児童質問紙(小学校)



児童質問紙(中学校)



高知県が示した【言語活動チェックシート】のLv.3に該当

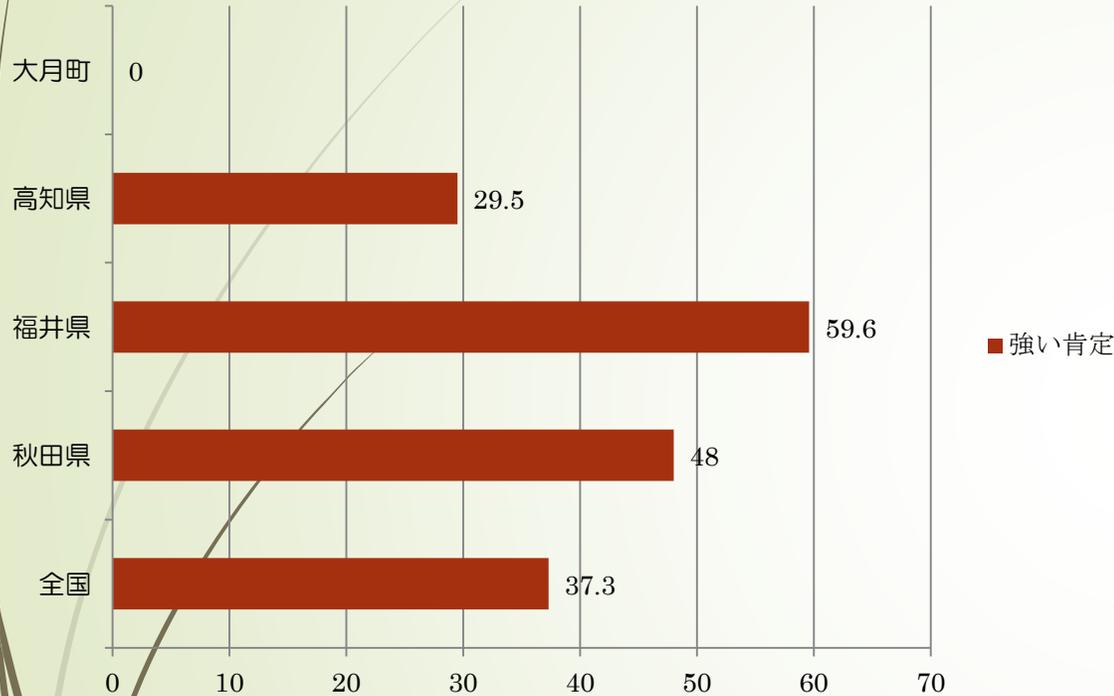
・教師が感じている以上に児童生徒は伝え合う活動を行っていると感じている。

☆自分の考えを伝え、聞き合うことで広げるために、流れの中の言語活動ではなく、単元を通して身に付けさせる資質・能力の育成ための言語活動を適切なタイミングに設定し、適宜修正することが鍵となる。(新学習指導要領、能力ベース赤本、授業の振り返り)

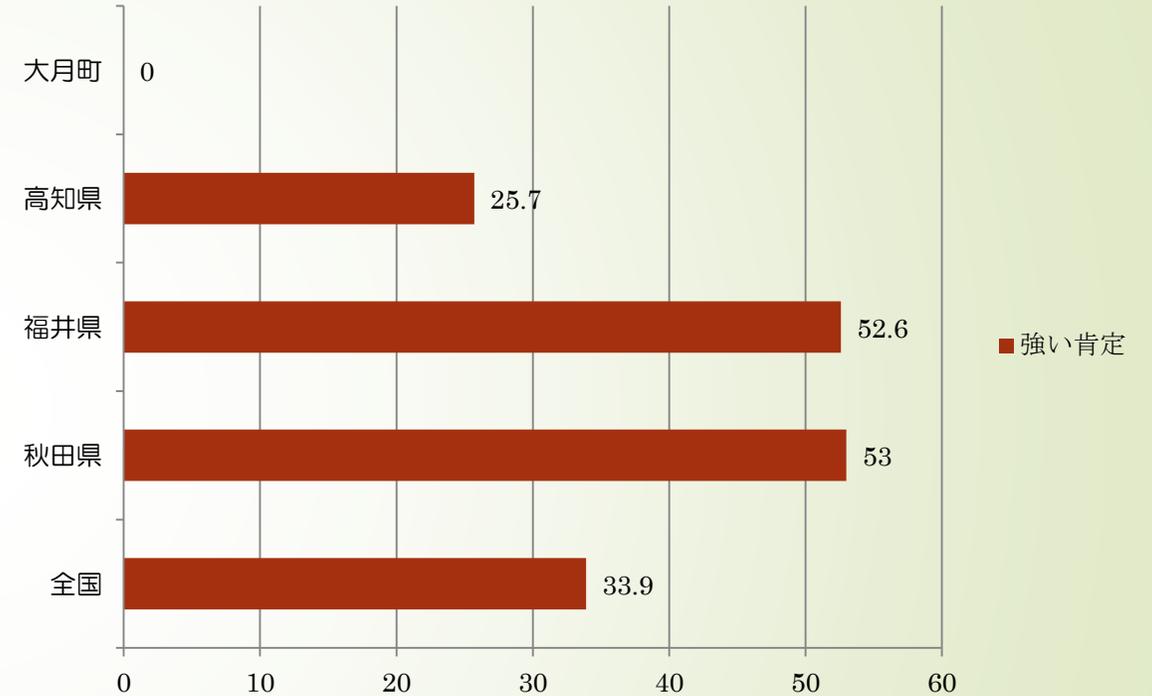
【小・中学校】

児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか

学校質問紙(小学校)



学校質問紙(中学校)

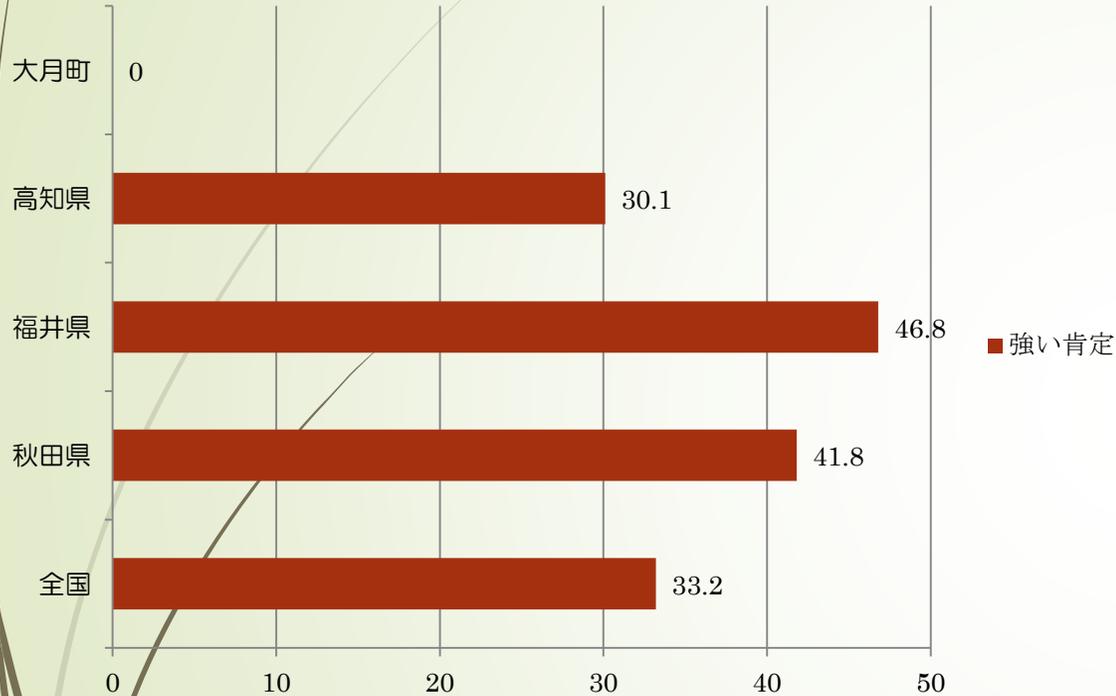


高知県が示した【言語活動チェックシート】のLv.5に該当
・児童生徒の意識調査は行っており、共有も図っている。
しかし、日々の授業における児童生徒の意識(振り返り)と授業改善のサイクルはこれからであろうと思う。
☆児童生徒の意識を確認し、単元構成はもとより目指す姿に向けた授業改善サイクルや行動面からの短期PDCAサイクルを並行して回すことが非常に大切である。(新学習指導要領、能力ベース赤本)

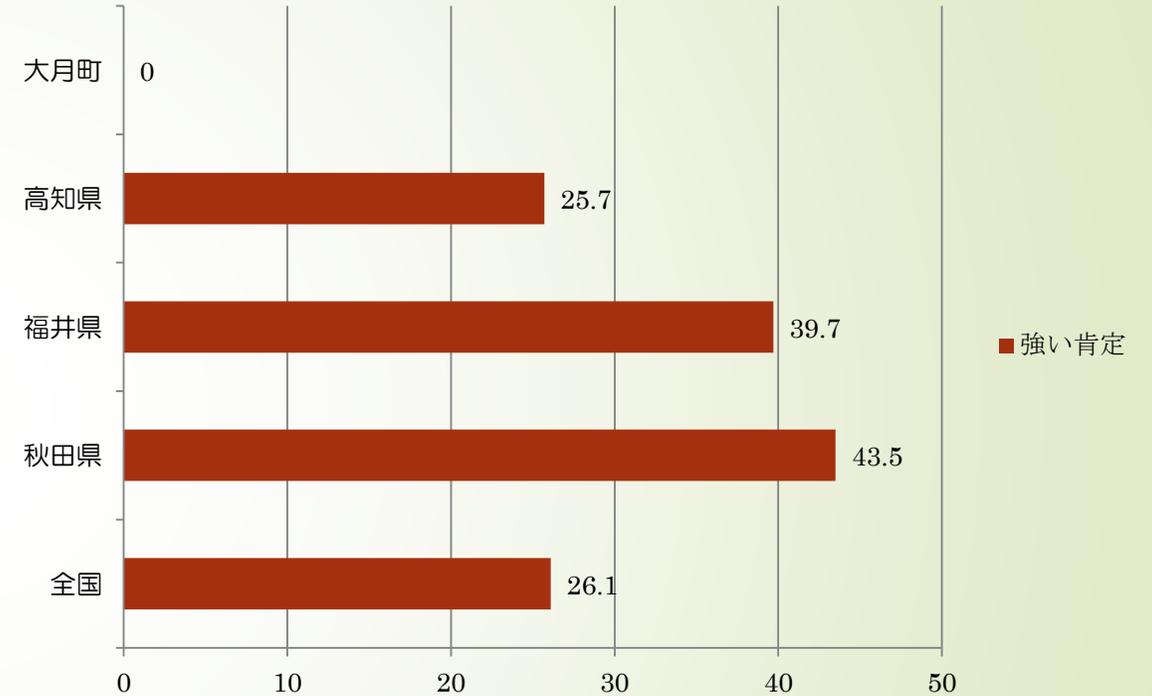
【小・中学校】

教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていますか

学校質問紙(小学校)



学校質問紙(中学校)



校内研修と校外研修の融合による個と集団の成長

・大月町の体制として、自習態勢が取りにくいことがあげられる。新学習指導要領がスタートし、授業も変わりつつあり、これまでの内容とこれからの方向性を最先端で学ぶ機会を設けることが成長への源になると考える。委員会としても支援できる形を模索し、より児童生徒のための指導力向上を目指した研鑽を積める機会の保障を考える時期に来ている。